［第 179 回藤樹人間学塾のご案内］



皆さま　　2026 年 １０ 月吉日

- 主　催　NPO法人高島藤樹会
- 日　時　2026　年 １１ 月　７　日　（土）　15時～17 時
- 場　所　高島市安曇川公民館（高島市安曇川町田中89）☎0740-32-0003
- テーマ　「藤樹先生に学ぶ人間学」
  テキスト　熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』（中央公論社）p.278～
- 塾　長　　田中 清行（090－1026－7882）
- 参加費　　無料（予約不要・どなたでも歓迎）

2026 年 10 月 3 日（土）、藤樹神社社務所で第 178 回「藤樹人間学塾」を開催しました。 今回は京都から 1 名、大津から 2 名を含め、8 名（うち女性 2 名）の道友が集まり、藤樹先生の気を感じながら深く学び合いました。



■ テキスト 『中江藤樹・熊澤蕃山』（中公バックス日本の名著 11）「集義和書」巻十二 義論の五（敵国外患あれば天下長久、君主と大臣）を輪読し、参考資料も交えて解説しました。

■ 今日の学び

【敵国外患あれば天下長久】 外に敵や苦難のない者は慢心から滅び、憂患のある者はかえって生き残る。（参考資料として、徳川家康の処世訓「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし」「勝つことばかり知りて、勝たぬ損を知らざれば、害その身に至る」などを紐解きました）。

【君主と大臣】 主君が自らの徳を明らかにしてみずから行いを慎み、家臣に是非・利害をはっきり納得させることが重要である。（参考資料として「ドラッカーの教え」を示し、現代ではトップが人徳を磨くだけでなく、部下が個人の自発的な強みを存分に発揮できる環境をつくることで、進んで働く組織となることを説明しました。

【運をつかむ】 松下幸之助氏の「運を強くするには徳を積む必要がある」という教えや、徳を積むためには『荀子』の「善をなす者は天これに報いるに福をもってす」、後藤新平の「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう」を学びました。

【貝原益軒に学ぶ運命をひらく極意】 平均寿命 40 歳前後だった江戸時代に 85 歳の長寿を全うし、名著『養生訓』を残した益軒の実践（天地からいただいた身体を愛しむ、食欲などを節制する、理不尽にも耐える忍耐力、怒りや心配に囚われない心）を学びました。 益軒の言葉「老後は一日を十日とし、一月を一年とし、喜楽して、常に時日を惜しむべし。老後の一日、千金にあたるべし」は、人生後半を歩む私たちの心に深く響きます。

■ フリートーキング（参加者の声）

・「安岡正篤師の『成功は常に苦心の日にあり、敗事は多く得意の時に因る』と同じだ。安岡師が蕃山を私淑された理由がよく分かった」

・「国の王なら実力者を遠ざけがちだが、それではダメだと分かり奥が深い。知的で博識な参加者皆様のお話が勉強になる」

・「ゴミ拾い等のボランティアをしているが、確かに気持ちが落ち着いて運をつかめる気がする」など、活発で味わい深い意見交換が行われました。

■ 懇親会 塾が終了後は場所を替えて 6 名で懇親会を行いました。美味しい料理を囲みながら塾の振り返りや大谷翔平選手の話題などで盛り上がり、大変楽しい時間となりました。学ぶは愉し！

～人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。